

銘柄分析レポート：絵に描いたような斜陽産業

1 はじめに

下図をご覧ください。我が国における出版業界の市場環境です。

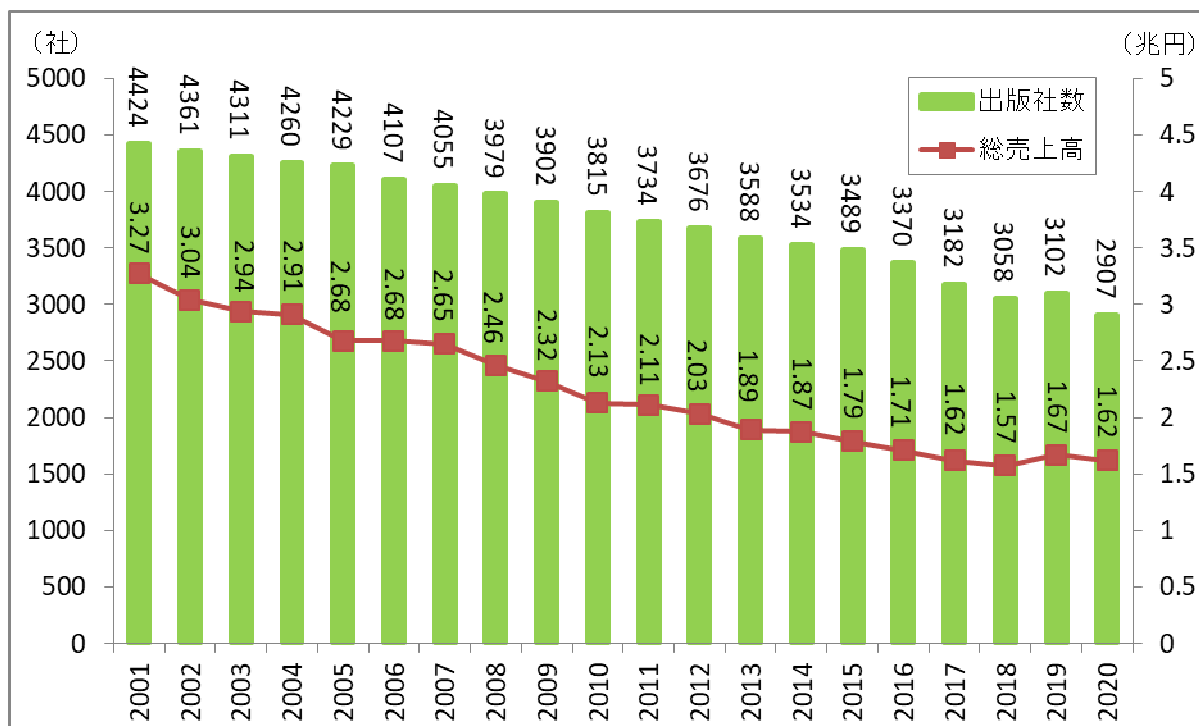
2001年には約3.27兆円あった総売上高が、2020年は約1.62兆円まで落ち込みました。20年間で市場規模が半減してしまったのです。それに伴い、出版社数も4424社から2907社まで減少しています。まるで絵に描いたような斜陽産業です。

このような業界は投資対象から外すべきでしょうか？ ところが売上を伸ばしている新興出版社の経営者は、強気のコメントを発しています。

私どもは競合出版社が減少し、新規参入もほぼないマーケットとプラスに捉えています。弊社のシェアはもともと小さいわけですから、戦略次第でシェアを伸ばしていくことができるという考え方でいます。

新規参入が活発で競争も厳しい成長産業と、そうでない斜陽産業では、後者のほうが自社のシェアを伸ばせる可能性が高いです。そういう意味で、私は斜陽産業に注目しています。

★出版社数と総売上高



日販「出版物販売額の実態」2021年版の掲載データに元に作成